



サーバス九州

日本サーバス九州支部会報 No.140 2010年12月7日

九州支部長

巷にクリスマスソングが流れ師走を感じさせる季節になりました。みなさまお変わりなくお過ごしのことと思います。サーバス九州の会報をお届けます。

1. 秋例会報告

今回の例会は日本最西端駅を自称している長崎県平戸市で11月13日～14日に行いました。参加者は宮崎から4名、大分・6名、熊本・2名、地元長崎・5名の計17名です。顔なじみも初顔も、ずっと以前から「旧知」の雰囲気楽しい集いになりました。

最初は HF さんに「キリシタン弾圧と隠れキリシタンの歴史」についてレクチャーをしていただきました。なぜ、領主はキリシタンの布教を勧めたか。領民はなぜキリシタンに帰依していったか。キリシタンの相互扶助生活、キリシタン禁止に至ったエピソード、信仰を保つための工夫、隠れキリシタン、その後の隠れキリシタンの信仰生活などなど。自身の育ち・経験をベースにしながらいび視野での調査・探求に基づく話でたいへん面白く勉強になりました。

夜は飲み放題のバイキング。ちょっと首をかしげたくなる料理もありましたが、おなかは満腹。9時からは場所を移して2次会。自己紹介兼近況報告で盛り上がりました。

翌日は平戸市内を散策後生月島まで足をのぼし、「鯨の館」で隠れキリシタンの信仰の様子を復元した田舎家を見学し、長い時間を経てキリシタンと神道・仏教がミックスして「土着の宗教」となっている「隠れキリシタン」についての学習を深めました。帰りを急がなければならなかった大分のメンバーと別れて10人は生月島の突端の灯台まで行きました。その時の平戸の写真を会員の石橋さんがブログにアップされています。どうぞお楽しみください。アドレスは <http://blogs.yahoo.co.jp/kenzoh2002> (Today's shot)

<宮崎の会員からメールをいただきました>

例会大変お世話になりました。

昼食したり、休憩したりで急がず慌てずの運転でしたので宮崎帰着は午後8時前でした。

車中では、平戸での楽しかった例会に花が咲きました。

私にとっては、初めての平戸でしたが、美しい入り江や壮大な東シナ海の景色、隠れキリシタンの歴史・悲話を知ることができて大変印象深い、有意義な例会でした。

また、初めてお会いする長崎の M さん、Y さん、W さんとも親しくお話ができて、さらに輪が広がりました。M さんが私の昨年、一昨年サーバス旅行レポートを読んで関心を持ってくださって、大変うれしく思いました。遠距離ではありましたが、収穫の多い小旅行でした。本当にありがとうございました。お礼申し上げます。

2. 東アジア国際会議報告

11月5(金)～7(日)、サーバス東アジア地区の国際会議が台北で行われました。佐賀の西

山さんがコーディネーターです。内容の詳細については SERVAS JAPAN にアップされていますので、そちらをご覧ください。ことにして、簡単に報告いたします。

九州からの参加者は4名です。他には、日本サーバス会長と東北地区の支部長がお見えでした。会場は剣譚活動センター。初日は歓迎夕食会で開会。台湾のサーバスには若い会員が多いのにびっくりしました。宿舎で部屋を共にしたのはフランス領リユニオンの方で1ヶ月間台湾を旅行中でした。「リユニオン」は私には初耳の地、自然いっぱいの魅力的な所のように行ってみたいになりました。

翌日は朝からサーバス活動についての各国の状況報告、会員拡大についてもいろいろな意見が交わされました。西山さんはモデレーターとして最初から最後まで大忙しでした。

初めての国際会議出席でしたが、いろいろな方との出会いがあり、とても楽しい交流ができました。みなさんも機会があったら旅行を兼ねて参加されたいかがでしょうか。

<台湾報告>

長崎

H F

この度、11月5日からサーヴァス・アジア会議があり、出席させていただいた。日程の大部分は皆さんと同じ体験をしたわけで、ここで述べることではないが、私だけ別についての用事があったので日程を前後に3日滞在を伸ばした。その用事というのは台湾に棲息する野生のミツバチのことを調べることであった。結論を言うと、その目的は十分に達成された。しかしそのことをここで述べていたら専門的すぎるので、割愛させていただくとして、その3日間に起こった私だけが経験したことを述べてみたいと思う。

先ずセイラー（仮名）について。私が割り当てられたホストは32歳の若い女性であった。中学の美術教師だと聞かされていた。自宅はアパートの3階であった。タクシーを降りて上がって行くと、入口に帰宅したばかりらしいジーパン姿で背丈のある美人がいた。まず完璧な発音でアメリカ英語が話されるのにおどろいた。広い居間と台所、それに3つの寝室があった。一番奥が彼女の寝室、真ん中が私の、手前が弟の部屋であった。弟さんは私の顔を見るとちょっと会釈をして自分の部屋に引っ込んだ。母親と同居していると聞いたが、母親は、入口を向かい合わせて隣に住んでいた。

「あなた、英語教師にもなれるんじゃないですか？ どこで英語を勉強したのですか？」と尋ねると、しばらくの沈黙の後、「英語にはとても時間をかけています。ビルマ語やインドネシア語も覚えたいのですが、時間がありません」と返事が返って来た。

私は夕食は済ませていたし、それに風邪をひいたらしく、とても疲労感に襲われていたので、すぐ休ませてもらった。8時過ぎだったと思う。彼女はホームワークがあると行って、居間の低いテーブルでパソコンを打ち始めた。

夜中の2時に便所に起きた時、彼女はまだパソコンを打っていた。

朝8時ごろ目を覚ましたが、何の物音もしなかった。まだ具合が良くなく、私はベッドから出なかった。9時になって彼女は、出勤はしなくていいけど友だちに会う用事があると行って出た。台所の流しには、使った皿類が放置されていた。便所はセイヨウ式で風呂場と一緒にあるが、湯船はなく、私はシャワーを浴びた。洗濯機は見あたらなかった。

私は食事に出かけたが、料理を注文するのが面倒なので、セブンイレブンでパンと牛乳を買って、込み合ったスクーターの群れを眺めながら食べた。部屋に戻ると、夕方の歓迎パーティまで寝ることにした。

正午過ぎに部屋の外で物音がした。ドアを開けると彼女の母親らしい人が、セイラーの部屋から洗濯物を抱えて出てくる場所であった。私は「ニーハオ」と挨拶をした。彼女も笑顔で「ニーハオ」と答えた。その後母親は掃除機をかけていた。

私は一切が呑み込めた。台湾はニホンどころではない学歴社会である。親は子供が幼児の時から英語の家庭教師を付け、一切の家事をさせず、夜中まで勉強させ、海外に留学させると聞いていた。その延長線上に、現在この家庭もあるのだと納得したのであった。

3. サーバス旅行報告2編

イギリス旅行

佐賀 SS

10月1日(金) 朝より福岡空港を立ち、台湾を経由して香港に着きました。香港よりヒースロー空港に出発するのに8時間ほど待ち時間があったので香港の街に出てブラブラしました。歩き疲れたので足つぼマッサージに行きました。たっぷり45分以上で1000円ほど。これで明日からのロンドンウォークはバッチリです。

10月2日(土) 朝早くヒースロー着 day pass を購入しました。地下鉄で先ずはノーザンラインのベルサイドパーク駅近くの The Premier Inn という本日滞在するホテルに荷物を預けました。AM~トラファルガー広場、海軍門、バッキンガム宮殿ではちょうどいい具合に衛兵交替式を見れました。ピカデリーサーカス周辺も見学。

16:00~ Lyric Theatre にて“スリラー”を鑑賞。

10月3日(日)

AM 大英博物館を見学。広大さにびっくりです。

PM 映画“ノッティングヒル”で有名なポートベローマーケットでアンティーク市をブラブラしてウィンドウショッピングを楽しみました。

PM5 時に Ruthさんとホテルで待ち合わせをして今晚より2日間お世話になるロンドン・ブリッジの近くに住む Marieさんの所についてきてくれました。バスの中では色々な場所の説明をしてくれながら、小さい赤ちゃんを連れた女性に席を譲ってくれたり、他人の荷物が倒れると起こしてくれたりととても親切で優しい方でした。Ruthさんは元々アメリカ人でアメリカに住んでいたそうです。フードコーディネーターをしているという事でした。Marieさんはとても美人でアパートでオウムのキキと生活をされていて、フランス人だと思います。キキは男性には良いが女性には噛みつくという事で“オーボウ”“ボンジュール”としゃべってました。Marieさんはとても親切な方で教会の仕事や福祉の仕事をされていました。イタリア人の友達から教わったという手作りのリゾットを御馳走してくれました。

10月4日(月)

朝より Marieさんの家より歩いてタワー・ブリッジ、ロンドン塔に行き見学。ロンドン塔では昔幽閉されていたり、処刑されたりなどの血なまぐさい歴史も知る事ができました。その後は元、ロンドン市長だったディック・ウィッチントンの住んでいた元建物など見に行きました。また「マイフェアレディ」で有名なコベントガーデンに行き、買い物などしました。

10月5日(火)

オックスフォードに移動。午後に本日より2日間お世話になる Valdisさんがトヨタのプリウスで迎えに来てくれました。80歳くらいの女性ですが、とてもお元気で食事の支度をしてくれたり、英語の指導までして頂きました。お父さんが軍人だったので両親はインドで生活をされていたらしくて、Valdisさんはナイジェリアに住んでいた事もあると言われていました。イギリス人は太る食べ物ばかりを食べるのでいけないと言われていました。

10月6日(水)

朝よりプレナム宮殿に行き、その後はオックスフォードで聖メアリー教会や現皇太子殿下が在学されたマートン・カレッジやクライスト・チャーチなど見学しました。夜は Valdisさんがパブにお気に入りの“The Boot Inn”というパブに連れて行ってくれました。とても素敵なパブで“ビーチーズ”等のサインもありました。

10月7日(木)

オックス・フォードのグロスター・グリーン・バスステーションまで Valdis さんが車で送って下さいました。そこからバスでまっすぐヒースロー空港まで行きました。

10月8日(金) あっという間に日本に帰ってきました。すぐに仕事がありました。イギリス滞在5日間と短い旅行でしたが、すごく貴重で私にとっては一生忘れられない体験となりました。これもサーバスのお陰だと思います。有り難うございます。

スイス周遊とフランス、アルザス地方を訪ねて 2010.9.25 ~ 10/22

福岡 TR

9/25~9/28 残暑の日本を発ちスイスを3週間、アルザス地方を1週間廻る旅に出た。関東に台風が近づき成田着陸時は風に煽られ横転するかと思う程揺れ怖い思いをする。夜、チュリッヒのソニアとフリドリッヒに到着。3年振りの再会で今回は4泊させていただく。

フリドリッヒがマラソンに参加した日、ソニアとベルンの大学に通う娘のクリスティンとレイゲンスバーク村に出掛けた。マーケットで賑わい民族衣装を纏った人達が輪になり唄い踊り始めた。翌日、シャフハウゼンでは1秒に70万ℓの水量を誇るラインの滝(ライン川)の轟々と流れる迫力に圧倒される。シャフハウゼンからシュタイン・アム・ラインへ。広場は美しいファサードに囲まれうっとり見入る。ヴァインタール近郊のケブル城は足を延ばした甲斐があったが寒くてTシャツを買い着込む。国立博物館、チュリッヒ湖遊覧、フラウムンスターではジャガールとジヤコメッティのステンドグラスに再会したりとチュリッヒの散策を楽しむ。ソニアがチュリッヒ名物料理ゲシュネツェルテス(仔牛の白ワイン、生クリーム煮とスイス風ハッシュポテト)・ラクレット(茹でたジャガイモに溶けたチーズをかける)などを作ってくれた。フリドリッヒはコスパルをソニアはカントリーハットを被ってラインダンスを楽しんでいる。参加する予定だったが風邪気味で断念した。



9/29~10/1 入浴剤入りのお湯で温まり熟睡して回復した。午前中ケルに移動しテレスに再会。風邪で声が出ない様子。3泊お世話になる。一緒にビュッホナ美術館へ行きジヤコメッティ一族が描いた絵を見てレーティッシュ博物館へ行く。テレスはテキスタイルを教えていたので美術に詳しい。再会を喜びゆったり過ごす。翌日、観光列車でアローザへ行きロープウェイでグアイホルン山へ登ると初雪で銀世界だった。ケルは「酪農組合50周年」の祭りで大賑わい、目抜き通りに丸太の長いテーブルが設えられビールやワインを飲み交わす人でいっぱい。山羊や豚、大音響のカベルを下げた牛などの行進が続きアルペンホルンや楽隊の演奏も聞ける。テレスとロープウェイで山奥のフェルティス村へも行った。

10/2~10/4 ベルン特急で南下し9時間かけカノーへ。坂の街で駅からケーブルカーで旧市街に入る。州立美術館へ行き旧市街を歩く。サン・サルバトール展望台からの素晴らしいはずの眺望は霧で翳っていた。湖にせりだした漁村がノリアへは二度も出掛ける。イタリアに入りコモ湖遊覧の後小雨の街を歩く。美術館が休館で残念だった。

10/5~10/6 朝、カノーへ移動。国際映画祭が開かれるグランテ広場を抜けヴァイスコンテ城へ向かう。珍しく街の一角にある。ケーブルカーで高台に登ると山吹色のサンタマリア・デル・アンジョリ教会が街やマジョーレ湖を見下ろすように建ち絶景だ。遊覧ボートでアスコナを訪ねるとカラフルな家が建ち並ぶ旧市街に個性的なショップが並び迷路のような小路が楽しい。カノーの旧市街の小さな教会がハッとするとほど美しかったりする。夜、公務員とジャーナリストのメンバーのルネとゲアルト宅へ。イタリア語圏で気候も穏やか食事もイタリア料理で訪れるゲストも多いとか。翌朝、疲れが出たのかうっかり寝坊した。ヴァルダッソ渓谷にあるソルニョ村へわくわくしながら出掛ける。途中、幻想的なめがね橋へも立ち寄る。村には共同でピザやパンを焼く煤けた大きな共同釜がありまだほの温かかった。

10/7 午前中、バリンツォーナへ移動。ホテルの部屋からグランテ城が間近に見える。この街には三つの城がありまず中腹のモンテベッロ城に登りそれから急な小道を黙々と歩いて山頂のサツコロバロ城へ。城のカフェで飲んだティチノ地方の極上の赤ワインは芳醇で忘れ難い！三つの城と城塞壁は世界遺産だ。夜、グランテ城でスイス軍の吹奏楽コンサートがあった。想像してみてください！オレンジ色にライトアップされた城壁の前で若い兵士たちが演奏し蝙蝠が飛び交う幻想的な場面を。クラシックからジャズまで実に見事な演奏を堪能した。

10/8~10/9 ヴァリアムテル特急で5時間のルツェルンに向かう。旧市街にある刑務所ホテルに泊まる。施設はそのままに独房に泊まるスタイル。エークで何だか映画の中に迷い込んだよう。前回はリギ山に登ったのでピラトス山頂を目指す。47度の世界一の急勾配をケーブルカーで這うように登る。街はどんより雲が厚

いが山頂は晴れ渡っている。山肌に沿った細い道を40分も歩き一番高いトリスホルヘ。(2132m)山頂で嘴が黄色い黒い鳥たちが肩に止まったり手からパンを食べたりと寄ってきた。ルヴェル美術館(モダン)、リヒルト・ワグナー博物館、歴史博物館、ローゼンガルト美術館を廻る。ローゼンガルトはピカソやパウル・クレーの作品が充実した美術館だ。ルヴェル名物料理ケーゲリASTEATE(仔牛肉汁をパイ生地に入れて焼いたもの)とルヴェルワインを楽しんだ。

10/10~10/13 午前中、ズワザー村とゼンパッ村へ行く。ゼンパッ駅には地図も無く母子連れに尋ねると歩くには遠いと車に乗せてくれた。午後、首都ベルンに移動しマリリーズと再会する。今はムバーではないが4泊お世話になる。75歳のジャーナリストで滞在中も新聞に記事が載った。彼女の英語の生徒たちとパーティーも楽しんだ。二度も膝の手術をした彼女だが元気で翌日一緒に山に行った。厚い雲を抜けると爽やかに晴れ渡り約2時間歩いてインターラーケン先のミュレン村へ。目の前はアイガー、ミヒ、ユングフラウヨッホが連なりまるで絵のようだ。ツアー客は反対側のグリンデルワルトに滞在する。ゼラニウムの花で飾られた家シャレーが建ち並ぶ。ロープウェイで遥か山頂のシルトホルン展望台(2960m)へ登る。翌日、スイス連邦議事堂の見学ツアーに参加、パスポートを預け空港並みの検査もある。ドイツ語、フランス語のみの案内で許可を貰いマリリーズは私の英語の通訳として同行した。実はベルン育ちの彼女も初参加で興味深々だったのだ。重厚な建物で議員の席に座り説明を受けた。面白いのは議事堂前の広場で大きなマーケットが開かれ冬は臨時のスケートリンクが出来て市民が楽しむ。トマス・クック船長の特別展とアインシュタイン展を開催中のベルン博物館へ行く。アインシュタインは新婚時代をベルンで過ごした。大聖堂の塔にも上り眺めを楽しみ、ベルン名物料理バルナーブラッテ(ハム、ソーセージ、豚肉、ジャガイロ、人参、ザワークラウトのコンソメスープ煮込み)を食べる。翌日、フリブール、ムルテン、ヌシャテルの三つの街を廻る。ヌシャテルの美術歴史博物館では18Cにジャコブ・トロ親子が作った有名な三体のからくり人形(ピアノを弾く女性、絵を描く、字を書く少年)について聞くと鍵を開けいくつもの部屋を抜け見せてくれた。実は実演日が限られているのに特別に見せてくれたのだ。やっぱりラッキー!

10/14~10/15 午前中、バーゼル経由でアルザス地方・ストラズブールに向かう。何だか様子がおかしい!フランスでストライキが起こり大幅に列車が遅れている。年金受給年齢の引き上げに反対するらしい。日本の若者と出会い2h待ってストラズブールまで同行する。駅近くのホテルにチェックイン後、前回水位が高く乗れなかったル川遊覧へ。パレオン宮を見て圧倒的な大きさの赤色砂岩で出来たノートルダム寺院で大からくり時計を見る。オベルネ村へも行ったが列車の間引き運転の為早めに戻る。繁殖期でない為空のコウノトリの巣を見た。アルザス博物館は昔の暮らしがわかり興味深い。公園で人懐こい鳩が手からパンをつつきに寄ってきた。夜、ライトアップされた大聖堂、パレオン、クハベル広場に出掛ける。雨が降り始めた。



10/16~10/18 朝、コルマルへ移動し駅正面のホテルにチェックイン。四つ星ホテルの上質のベッドでぐっすり眠れた。朝食もない、つまり高い訳だが便利この上ない。ワイン街道のリグール村へ行く。ワインの産地で観光客の傘の花が咲き乱れている。リグール村は細く長く絵のような家々が続く。バスは辺り一面真っ黄色の葡萄畑の中を走り続ける。美味しそうなパン屋でアルザス名物料理タルトフラン(ベーコン、玉葱、マッシュルームと生クリーム、チーズがのった極薄ピザ)を食べる。切り売りのワニのようにでっかい長いパンも売っている。翌日、12Cに建てられたオーケクスブール城へ。赤色砂岩の力強い城だが眺望は城の建物さえ見えぬ深い霧で全く見えない。それでも妖精のコスチュームを纏ったパフォーマンスはむしろ幻想的だった。土曜で代替のバスも無く列車で10分の隣駅で3h待ちとなる。コルマルの回廊のある教会が美術館になったウンテンリデン美術館へ行く。ひどい皮膚病で肌の色も悪く磔にされたキリストの絵で有名だ。旧市街、プティットヴァエスを歩く。翌日、バスでシュヴァイツァー博士の故郷カゼルベルグ村を訪れる。フランス語しか話さぬドライバーとの間を繋いでくれたのは日本語の上手な青年だった。丘の上の古城に登る時躓いて膝を石に強打し二日ほど響いた。持参した消炎剤のジェルが役立った。

10/19~10/20 早朝、駅は土曜の影響で混んでいた。スイスに入るとその心配も無く午前中チューリッヒに着く。市内を歩きショッピングを済ませてリテンホフ公園に立ち寄る。夜、夜景が美しい街へ出る。土産で荷物も膨らみ郷土料理やワインを楽しんで私も膨らんだみたい。最終日はアッペンツェルとザンクト・ガレンを訪ねた。途中ゴッサウ駅からいきなり雪景色に変わり雨で底冷えする。もう要らないと前夜貼るカレを捨て手袋も荷物に入れていた。あ〜、いざという時に無いんだから!アッペンツェルは最近まで女性に参政権が無かった今どき珍しい街だ。今年に一度全住民が広場に集まり挙手で全てを決め

る。ザンクト・ガレンでは大好きな世界遺産の修道院図書館に直行する。目も眩むほどの美しさで床を傷めぬよう靴を履いたまま大きなフェルトのスリッパを履き見学する。名物料理プレートバルスト（大きなソーゼージとスイス風ハッシュドポテトにソースがかかる）を食べた。帰りの列車に乗る時誰かがリュックを開けるのを感じパッと振り返ると男がとぼけた風でさっと降りて行った。貴重品は何にも入っていないのだ、がっかりしただろうな！チュリッヒ美術館では素晴らしいコレクションに時を忘れて見入った。ゴッホの初めて目にする作品の前でしばし佇んでいた。

10/21~10/22 午前の便で帰国の途に。各地で信じられないほど多くの中国人観光客を見かけ国の勢いを直に感じた。スイスインとアルプスインも美味しかった。人の出会いと旅はやっぱり面白い。あっという間の4週間だった。

4. 2011年会費をよろしくお願いします

会計年度が替わります。

サーバス九州の会計年度は1月～12月です。会費は前納制だそうですので、2011年分の会費（3,000円）を別記の郵貯口座にご納金いただくか（郵貯口座からの振込は手数料無料）、「払い込み取り扱い票」（青色）をご利用ください。